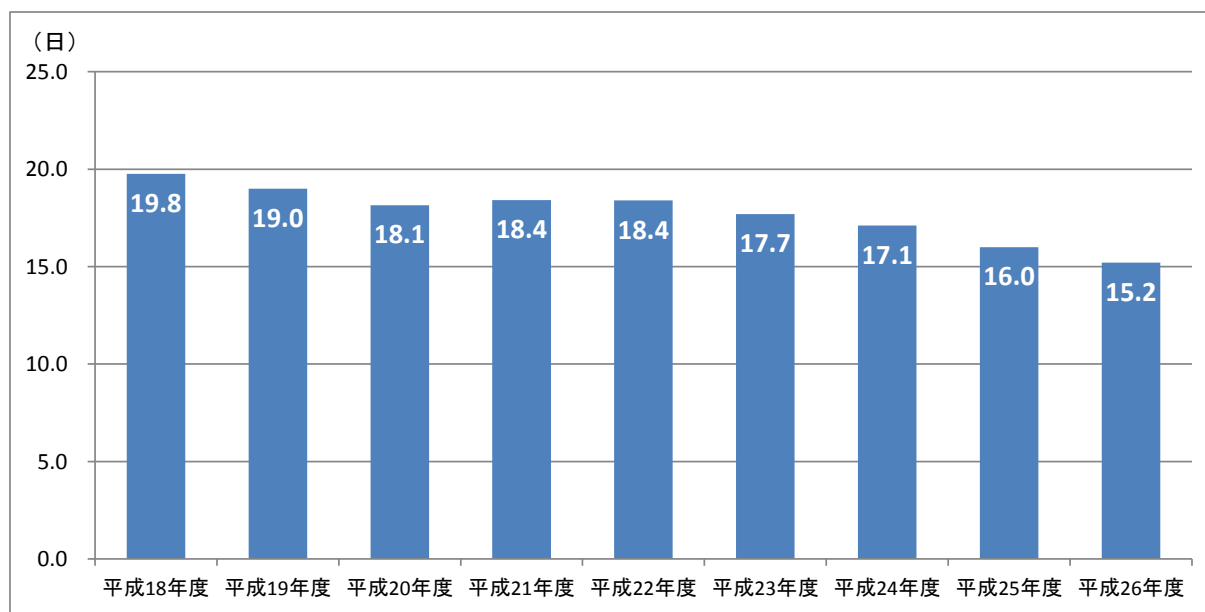


2.7. 平均在院日数



病床稼働率と同様に病院の経営指標の一つである平均在院日数は、どの施設においても重要な指標として、注目される項目である。一般急性期病院は、在院日数 18 日以内が求められ、在院日数の短縮傾向は進んでいる。

その中で平成 25 年度、当院の平均在院日数は 16 日程度であったが、26 年度は 15.2 日と短縮した。しかし、未だ、他の私立医科大学病院、近隣の大病院と比較しても長い状態で、DPC の機能評価係数Ⅱにおける効率性指数が低く抑えられている。

クリニカルパスの利用を推進し、医療の質を保障した上で効率化を進める必要がある。またベッド稼働率が 80%程度であることも併せて考察すると、保有病床数の再考も必要と考える。

データ提供 医療事務部入院医事課